



2025年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年3月14日

上場会社名 株式会社CINC 上場取引所 東
 コード番号 4378 URL https://www.cinc-j.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石松 友典
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 雨越 仁 (TEL) 03-6822-3601 (代表)

配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年10月期第1四半期の連結業績(2024年11月1日~2025年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年10月期第1四半期	469	—	0	—	1	—	△21	—
2024年10月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2025年10月期第1四半期 △21百万円(—%) 2024年10月期第1四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年10月期第1四半期	△6.48	—
2024年10月期第1四半期	—	—

(注) 1. 2025年10月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年10月期第1四半期の数値および前年同四半期増減率並びに2025年10月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 2025年10月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年10月期第1四半期	1,799	1,493	82.9
2024年10月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2025年10月期第1四半期 1,492百万円 2024年10月期 一百万円

(注) 2025年10月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年10月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年10月期	—	—	—	—	—
2025年10月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年10月期の連結業績予想(2024年11月1日~2025年10月31日)

(注) (%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
通期	2,383	—	△35	—	△35	—	△91	—	△27.14	—

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 2025年10月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前年増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社(社名) 株式会社CINC Capital、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年10月期1Q	3,432,505株	2024年10月期	3,431,680株
② 期末自己株式数	2025年10月期1Q	60,039株	2024年10月期	60,039株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年10月期1Q	3,372,421株	2024年10月期1Q	一株

(注) 2024年10月期第1四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、期中平均株式数を記載しておりません。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加に支えられ、景気は緩やかな回復基調を維持しました。一方で、エネルギー価格や原材料価格の高止まり、円安の長期化による物価上昇が続いており、個人消費は節約志向が強まるなど、厳しい状況が続いております。また、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国経済を下押しするリスクとなっており、物価上昇、アメリカの今後の政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があります。

当社が展開するサービスを取り巻く環境は、インターネット、スマートフォン、SNSの普及によりデジタルチャネルでの購買が一般化してきたこと、新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけにオフラインでのマーケティング活動が制限されたこと等により、企業のマーケティング活動のデジタルシフトが続いており、当社が事業を展開するDXコンサルティングや「Keywordmap」等のデジタルマーケティングを支援するサービスへの需要は引き続き拡大傾向にあります。また、生成AIの進化を含む新技術の普及が進むなど、劇的な変化が起きています。

このような経営環境のもと、当第1四半期連結累計期間の売上高は469,223千円となりました。利益面につきましては、営業利益は827千円、経常利益は1,159千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は21,858千円となりました。

なお、セグメント別の経営成績につきましては、報告セグメントを従来の「ソリューション事業」及び「アナリティクス事業」の2区分から、「ソリューション事業」「アナリティクス事業」「M&A仲介事業」の3区分に変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（セグメント情報等）」の「（報告セグメントの変更等に関する事項）」に記載しております。

（ソリューション事業）

ソリューション事業は、企業のWebサイト改善やコンテンツ制作におけるニーズに応えるため、Keywordmapの提供に加え、顧客のマーケティング業務の実行支援を強化したことで、既存顧客からのアップセルが増加しました。

一方、営業人員の不足により、新規案件の獲得が鈍化しました。カスタマーサクセスチームに関しては、人員の減少により解約案件が増加しましたが、リソース不足を解消するために、エキスパートソーシングサービスと連携し、外部パートナーの積極的な活用を開始しました。

その結果、当セグメントの売上高は202,629千円となり、セグメント利益は44,868千円となりました。

（アナリティクス事業）

アナリティクス事業は、マーケティングDXコンサルティングサービスにおいては、営業人員やコンサルタントの不足により、新規案件の獲得が鈍化しました。一方、顧客層は従来の中堅企業に加え大手企業へと拡大しています。さらに、生成AIやデータ取得技術を活用した業務効率化のシステム開発を行ったことにより、コンサルタント1人当たりの生産性が向上しました。

エキスパートソーシングサービスにおいては、新規の取引先へのマーケティング人材の紹介が順調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は273,243千円、セグメント利益は9,798千円となりました。

（M&A仲介事業）

M&A仲介事業は、当第1四半期連結会計期間については、広告宣伝費、システム開発への投資を積極的に行いました。また、案件の成約には至りませんでした。人材投資により売り手・買い手双方への営業体制が整備・強化されたことや、タクシー広告・オウンドメディア・ウェビナーを活用したマーケティング施策が順調に推移したことで、アポイントメントの獲得が進捗しました。また、上場企業・未上場企業問わず3万件以上のM&A実績データの自動収集機能と、買い手企業データを自動収集して分析する独自システム「CAMP DB（キャムディービー）（※1）」に

よるマッチング業務の効率化により、新規案件の創出を加速させています。

その結果、当セグメントの売上高は一千円、セグメント損失は53,840千円となりました。

(※1) 「CAMM DB (キャムディービー)」とは「CINC AI M&A Matching DataBase」の略称

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、1,799,875千円となりました。

流動資産は1,486,406千円となり、その主な内訳は、現金及び預金1,246,330千円、売掛金180,896千円です。

固定資産は、313,468千円となり、その内訳は有形固定資産69,608千円、無形固定資産80,929千円、投資その他の資産162,930千円です。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は306,747千円となりました。

流動負債は279,642千円となり、その主な内訳は買掛金42,357千円、賞与引当金21,988千円、流動負債のその他に含まれる未払金53,397千円、未払費用75,372千円です。

固定負債は27,105千円となり、その内訳は資産除去債務27,105千円です。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は1,493,127千円となりました。

その主な内訳は、資本金10,021千円、資本剰余金934,908千円、利益剰余金591,840千円です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年10月期の業績予想については、2024年12月13日の「2024年10月期 決算短信」で公表いたしました通期の予想数値に変更はございません。

今後、経営環境等の変化により業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

		当第1四半期連結会計期間 (2025年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		1,246,330
売掛金		180,896
その他		59,870
貸倒引当金		△691
流動資産合計		1,486,406
固定資産		
有形固定資産		69,608
無形固定資産		80,929
投資その他の資産		
その他		164,080
貸倒引当金		△1,149
投資その他の資産合計		162,930
固定資産合計		313,468
資産合計		1,799,875

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間
(2025年1月31日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	42,357
1年内返済予定の長期借入金	6,686
未払法人税等	2,767
賞与引当金	21,988
その他	205,843
流動負債合計	279,642
固定負債	
資産除去債務	27,105
固定負債合計	27,105
負債合計	306,747
純資産の部	
株主資本	
資本金	10,021
資本剰余金	934,908
利益剰余金	591,840
自己株式	△43,826
株主資本合計	1,492,944
新株予約権	183
純資産合計	1,493,127
負債純資産合計	1,799,875

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)
売上高	469,223
売上原価	158,931
売上総利益	310,292
販売費及び一般管理費	309,465
営業利益	827
営業外収益	
受取利息	29
助成金収入	200
その他	138
営業外収益合計	367
営業外費用	
支払利息	35
その他	0
営業外費用合計	35
経常利益	1,159
税金等調整前四半期純利益	1,159
法人税、住民税及び事業税	2,767
法人税等調整額	20,250
法人税等合計	23,017
四半期純損失(△)	△21,858
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△21,858

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)
四半期純損失(△)	△21,858
四半期包括利益	△21,858
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△21,858

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

当社グループは、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。
四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は次の通りです。

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称 株式会社CINC Capital

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の四半期決算日は、四半期連結決算日と一致しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	アナリティクス 事業	M&A仲介 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	197,380	271,843	—	469,223	—	469,223
セグメント 間の内部売上 高 又は振替高	5,249	1,400	—	6,649	△6,649	—
計	202,629	273,243	—	475,872	△6,649	469,223
セグメント利 益又は セグメント損 失(△)	44,868	9,798	△53,840	827	—	827

(注) 1. 「調整額」の区分は、セグメント間取引消去6,649千円を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

第1四半期連結会計期間より報告セグメントを従来の「ソリューション事業」及び「アナリティクス事業」の2区分から、「ソリューション事業」「アナリティクス事業」「M&A仲介事業」の3区分に変更しております。この変更は、従来「その他」に含まれていた「M&A仲介事業」について量的な重要性が増したためであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報の記載を省略しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

当第1四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)	
減価償却費	13,524千円